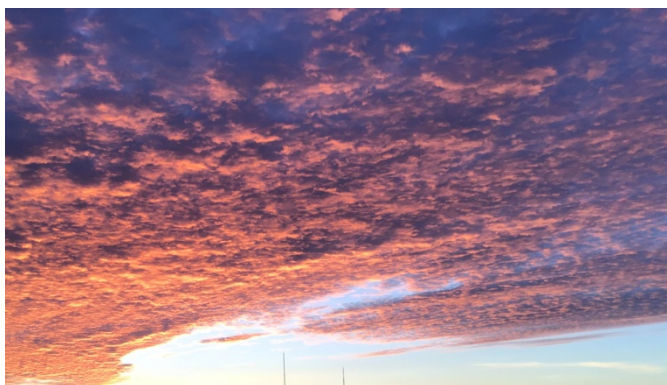


新しい年、2020 年を迎えて

昨日、大晦日の朝は、2019 年わが研究を振り返った。翌朝の元旦には、新しい年、2020 年を迎えてとレポートしている。1 日で何かが変わるわけでもないが、自分なりに 1 年の「区切り」をつけておきたい。これも退職して 5 年近く過ぎ、「古希」という峠も越したので、こんな気分になるのだろうか。

今年 2020 年は、写真のような年になるのではと考えている。写真は昨年 9 月 10 日の早朝に自宅ベランダから撮った。

「定点観測」している生駒山の方を眺めると、今まで見たことのないような朝焼けの空が一面に広がっていた。なんとも言えない朝焼けだ。早速、フェイスブック表紙をこれに差し替えた。



2020 年という年は、時代の変化を予感させる。猛暑の夏は東京オリンピック・パラリンピックに、日本中が沸いていることだろう。その前後に、とりわけ政治の世界で大きな動きがありそうだ。

ひとつは国政レベルだ。長期にわたる安倍政権が、このまま続くとは考えにくい。「桜疑惑」はもちろん、数々の失態、悪政を重ねながら逃げ回っている安倍首相ら。こんな政治の転換を予感させる。いや転換しないと、この国は立ち上がれなくなってしまう。

もうひとつの動きとして、わがまち大阪の政治である。何回もレポートしてきたように、大阪市を廃止して 4 特別区に分割再編する「都」構想をめぐって、11 月上旬には住民投票が行われる。5 年前の住民投票では、名古屋からメッセージやエールを送った。こんどは大阪市民の一人として、大阪市廃止により甚大な影響を受ける当事者として、住民投票に立ち向かわなくてはならない。大阪維新の会の支持基盤と「底力」、それに追従することになった公明党の変質など、大阪市廃止をめぐる情勢は厳しいものがある。朝焼けの空の写真は、そんな大阪を表現している。

年のはじめから、政治談議になってしまった。こんな 2020 年をどう生きていくか。また歳を重ねるわけで、まずは健康を心がけたい。いろいろ慢性的な病を抱えているが、医者にも定期的に通いながら、なんとか悪化するのをくいとめたい。それには毎日 8000 歩を心がけるなど、体を適度に「こき」使い、生活のリズムを保っていくことだ。早く寝て早く起き、毎朝レポートを書く。そして図書館通いを続ける。これが退職後の生活スタイルだ。こんな事情もあり、できるだけ夜の会議などは避けたいのだが、ここでも住民投票のことが気がかりだ。研究面でも、「半歩前進」させたいのだが。

(2020 年 1 月 1 日)